

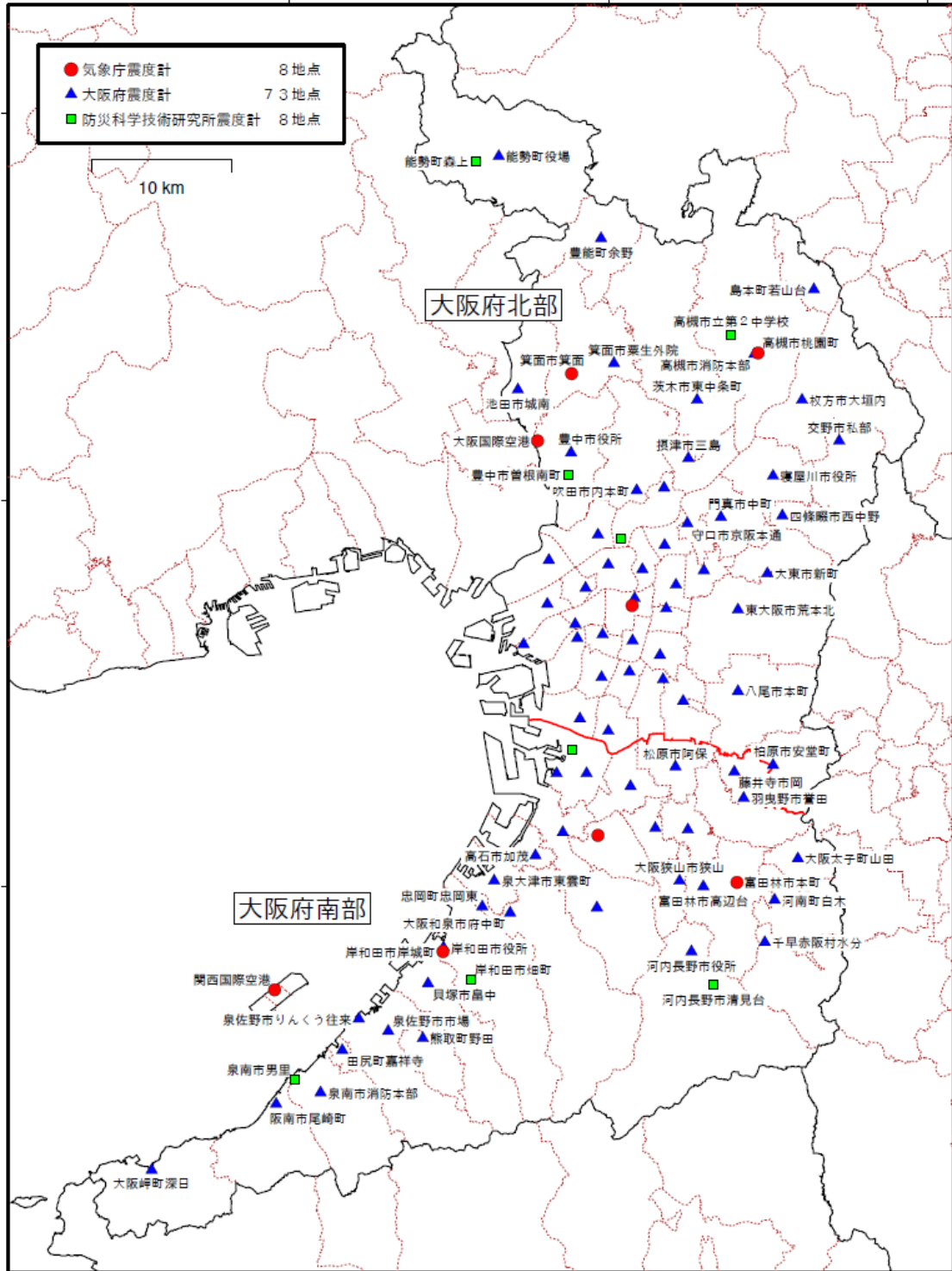
## 大阪市で震度4以上を観測した地震

(資料：大阪管区気象台)

地震発生				震度	震央地名(地震名)	北緯	東経	深さ km	規模 M
年	月	日	時分						
大正12(1923)	9	1	11:58	4	神奈川県西部	35度20分	139度08分	23	7.9
昭和2(1927)	3	7	18:27	4	京都府北部(北丹後地震)	35度38分	134度56分	18	7.3
昭和11(1936)	2	21	10:07	5	奈良県(河内大和地震)	34度31分	135度42分	18	6.4
昭和18(1943)	9	10	17:36	4	鳥取県東部(鳥取地震)	35度28分	134度11分	0	7.2
昭和19(1944)	12	7	13:35	4	三重県南東沖(東南海地震)	33度34分	136度11分	40	7.9
昭和21(1946)	12	21	4:19	4	和歌山県南方沖(南海地震)	32度56分	135度51分	24	8.0
昭和23(1948)	6	15	20:44	4	紀伊水道(日高川地震)	33度43分	135度17分	0	6.7
昭和27(1952)	7	18	1:09	4	奈良県(吉野地震)	34度27分	135度46分	61	6.7
昭和38(1963)	3	27	6:34	4	若狭湾(越前岬沖地震)	35度49分	135度48分	14	6.9
昭和44(1969)	9	9	14:15	4	岐阜県美濃中西部	35度47分	137度04分	3	6.6
昭和60(1985)	1	6	0:45	4	和歌山県北部	34度11.0分	135度32.9分	70	5.8
平成7(1995)	1	17	5:46	4	大阪湾(兵庫県南部地震)	34度35.9分	135度02.1分	16	7.3
平成7(1995)	1	25	23:15	4	兵庫県南東部	34度47.5分	135度18.2分	15	5.1
平成12(2000)	10	6	13:30	4	鳥取県西部(鳥取県西部地震)	35度16.4分	133度20.9分	9	7.3
平成16(2004)	9	5	19:07	4	三重県南東沖	33度01.9分	136度47.8分	38	7.1
平成16(2004)	9	5	23:57	4	三重県南東沖	33度08.2分	137度08.4分	44	7.4
平成25(2013)	4	13	5:33	4	淡路島付近	34度25.1分	134度49.7分	15	6.3
平成30(2018)	6	18	7:58	5弱 ～ 6弱	大阪府北部	34度8分	135度6分	13	6.1

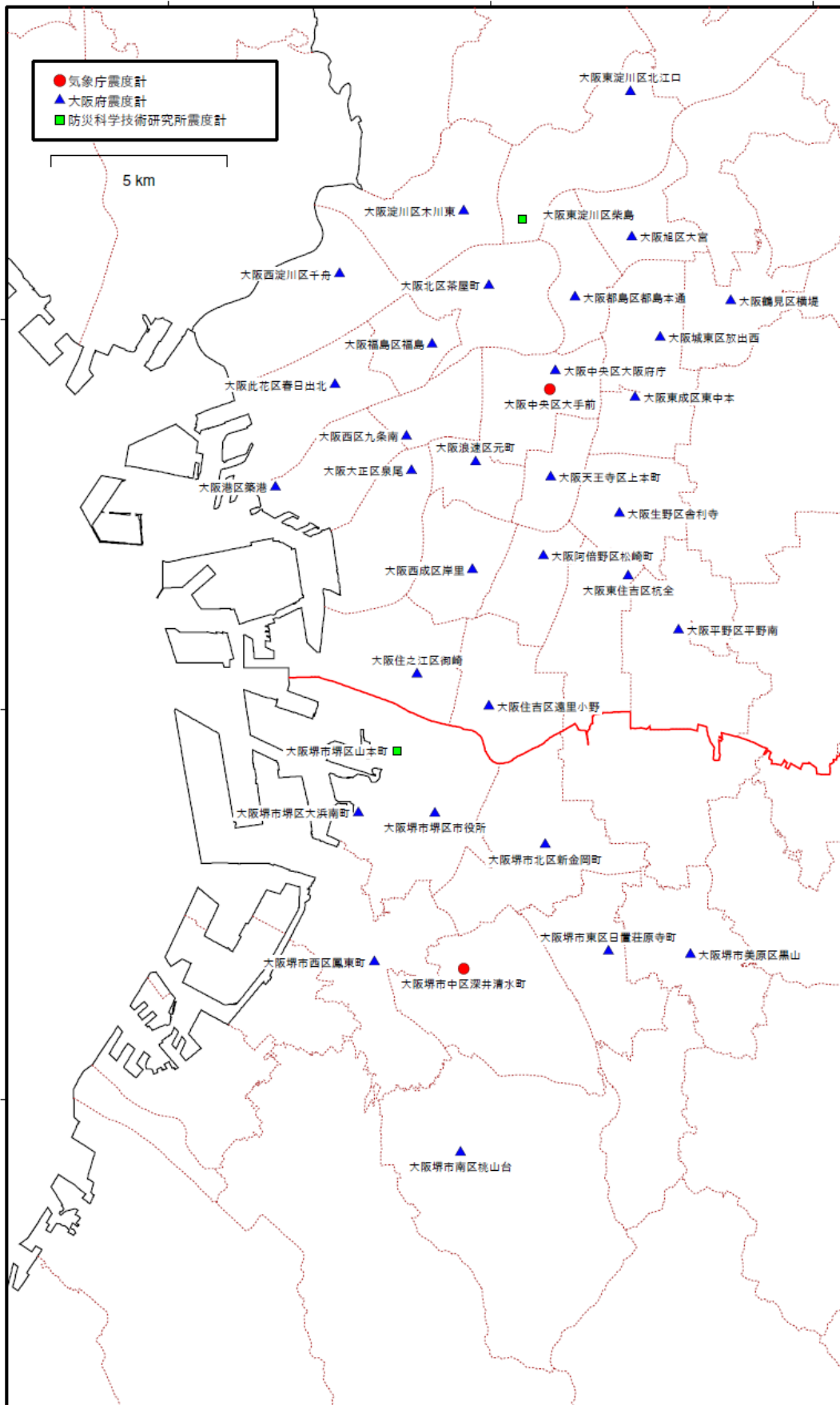
# 大阪府 震度計

2020年3月12日現在



大阪市内と堺市内の詳細は別紙参照。

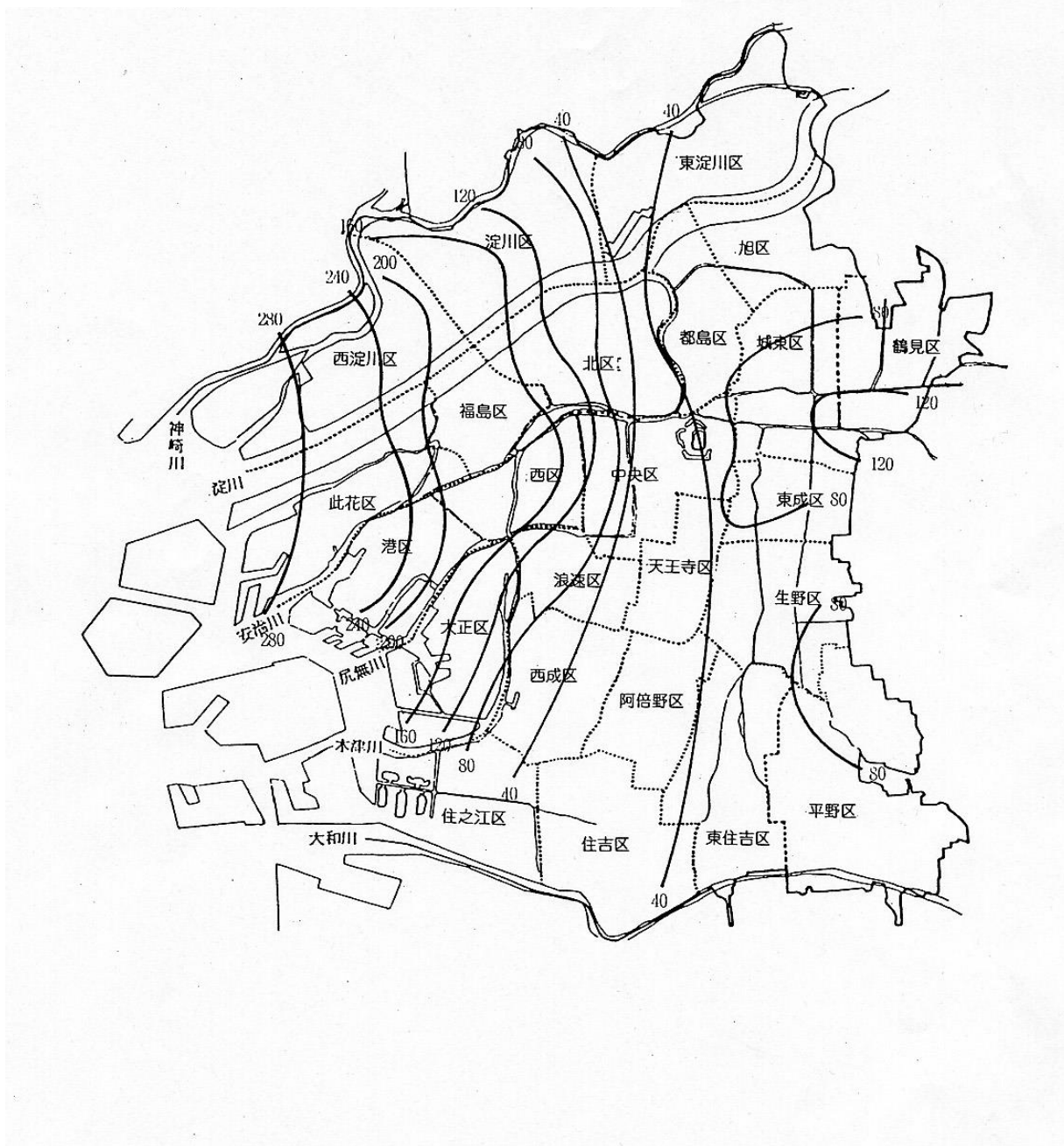
地図は国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用。



地図は国土地理院の数値地図25000（行政区・海岸線）を使用。

# 大阪市内の累積沈下等量線推定図

(昭和10年～平成19年度累計、単位：cm)



大阪市域に被害をもたらしたと考えられる主要な歴史地震

西暦年月日	和暦年月日	M	発生地／地震名	津波	地震に関する記述	資料
684年 11月29日	天武13年 10月14日	8.3	土佐その他南海・東海・西海地方	10～20m程度	山崩れ、河湧き、家屋社寺の倒潰、人、家畜の死傷多く、津波来襲して土佐の船多数沈没。土佐で田苑50余万頃（約12km <sup>2</sup> ）沈下して海となった。南海トラフ沿いの巨大地震と思われる。	理科年表
			西日本太平洋側	大津波	山崩れ、河湧き、諸国の郡官舎・百姓倉・寺塔・神社の壊多く、人畜の死傷多し。津波来襲し、土佐の運調船多数沈没。土佐で田苑50余万頃（約12km <sup>2</sup> ）沈下して海となる。伊予の温泉湧出止まる。南海トラフ内側のM8級の巨大地震と思われる。	地震の事典
734年 5月18日	天平6年 4月7日		畿内・七道諸国		民家倒潰し圧死多く、山崩れ、川塞ぎ、地割れが無数に発生した。	理科年表
887年 8月26日	仁和3年 7月30日	8.0～8.5	五畿・七道	10～20m程度	京都で民家・官舎の倒潰多く、圧死多数。津波が沿岸を襲い溺死多数、特に摂津での津波の被害が大きかった。南海トラフ沿いの巨大地震と思われる。	理科年表
			諸国（主として西日本太平洋側）	大津波	京都で諸司官舎および東西両京の民家の倒壊あり、圧死多数。五畿七道諸国で官舎破損多し。津波あり、溺死者多数。摂津の国で被害が最もひどかった。余震8月末まで続く。南海トラフ内側のM8級の巨大地震と思われる。	地震の事典
1099年 2月22日	康和1年 1月24日	8.0～8.3	南海道・畿内		興福寺・摂津天王寺で被害。土佐で田千余町みな海に沈む。津波があったらしい。	理科年表
			近畿・四国	津波	興福寺大門、回廊転倒、塔破損、西金堂小破。摂津天王寺被害。土佐田千余町海に沈む。南海道沖のM8級の巨大地震とみられる。	地震の事典
		8.0～8.3	南海道・畿内		興福寺西金堂・塔小破。大門と回廊が倒れた。摂津天王寺回廊倒れる。土佐で田千余町（約1000ha）みな海に沈む。『近衛家文書』によると木曾川下流の鹿取・野代の地が「空変海塵」の状態となったが数十年後にしばらく陸地となり開作可能となった。津波記事未発見。津波ありしこと疑いなし。 近江勢多橋が落ちた。	新編日本被害史料第1巻 新収日本地震史料第1巻
1299年 6月4日	正安1年 4月25日		大阪・畿内		『本朝年代記』によると天王寺金堂倒れる。京都南禅寺堂社も倒れ、畿内で1万人余というも、他の文献なし。再考を要す。	新編日本被害地震総覧
1360年 11月22日	正平15年 10月5日	7.5～8.0	紀伊・摂津	4～6m程度	4日に大震、5日に再震、6日の六つ時過ぎに津波が熊野尾鷲から摂津兵庫まで来襲し、人馬牛の死が多かった。	理科年表
			紀伊半島 大阪湾	津波？	6日朝津波が熊野尾鷲から摂津兵庫まで来襲、人馬牛死多し。	地震の事典
1361年 8月3日	正平15年 6月24日	8.2～8.5	畿内・土佐・阿波	10～20m程度	摂津四天王寺の金堂転倒し、圧死5。その他、諸寺諸堂に被害が多かった。津波で摂津・阿波・土佐に被害、特に阿波の雪（由岐）湊で流失1700戸、流死60余。余震多数。南海トラフ沿いの巨大地震と思われる。	理科年表
			近畿中部南部・四国	大津波	摂津四天王寺の金堂転倒、5人圧死。奈良招提寺・薬師寺・山城東寺などの、諸事の堂塔倒れ、傾き、或いは破損。紀伊熊野神社の社頭並びに仮殿その他ことごとく破損。熊野山の山路並びに山河の破損多く、湯の峰温泉の湧出が止まった。余震が多かった。 津波により摂津・阿波・土佐で被害。阿波雪（由岐）湊全滅、家屋流失1700、死60（以上）。難波浦では数百町潮が干いて、約1時間後に津波来襲、漁師数百人溺死。〔阿波（周防）鳴門で潮がかれた。〕南海道沖のM8級の巨大地震とみられる。	地震の事典

西暦年月日	和暦年月日	M	発生地／地震名	津波	地震に関する記述	資料
1498年 9月20日	明応7年 8月25日	8.2~ 8.4	東海道全般	10~20m程 度	死者41,000名、紀伊から房総にかけての海岸と甲斐で振動大きかったが、震害はそれほどでもない。津波が紀伊から房総の海岸を襲い、紀伊大湊で家屋流失1千戸、溺死5千、伊勢・志摩で溺死1万、静岡県志太郡で流死2万6千など。南海トラフ沿いの巨大地震とみられる。	理科年表
			【明応地震】	大津波	死者41,200。紀伊から房総にかけての沿岸地方と甲斐で振動大きく、熊野本宮の社殿倒れ、那智の坊舎が崩れ、遠江では山崩れ、地裂けた。湯ノ峰温泉は10月8日まで湧出が止まった。京都では余震が閏10月まで続いた。 津波は紀伊から房総までの海岸を襲い、被害が大きかった。伊勢大湊で家屋流失1千、溺死5千、大湊領塩屋村では180戸ほとんど全滅して生き残った者わずか4~5人。伊勢・志摩で波高6~10m程度、溺死1万。遠州灘・駿河湾沿岸で被害が大きかった。 波高は駿河湾内江梨（沼津市）・小川（焼津市）で8m「水死2万6千」。西伊豆仁科郷では津波は海岸から18~19町の内陸に達した。鎌倉では波が八幡宮参道に達し、流失200。安房小湊誕生、寺流没。 浜名湖岸が切れて海に通じるようになった。今切という。（明応8年6月10日暴風雨・永正7年8月8日・7年8月27日風津波によるなどの説もある。） 東海沖のM8級の巨大地震とみられるが、明応年間に和歌山県紀ノ川河口に大津波があったという史料があり、この地震によるものとすれば震源域はさらに西へ延びていたことになる。	地震の事典
1510年 9月21日	永正7年 8月8日	6.5~ 7.0	摂津・河内		摂津・河内の諸寺で被害。大阪で潰死者があった。余震が70日余続く。	理科年表
			大阪府・ （駿河湾）	津波	河内の藤井寺・常光寺・剛麻寺潰れ、摂津四天王寺の石の鳥居・金堂本尊大破、大阪で潰死者あり。（浦々高潮充満、流失家屋があった。駿河湾西岸で大地震・大津波）	地震の事典
1579年 2月25日	天正7年 1月20日	6.0	摂津		四天王寺の鳥居崩れ、余震3日間にわたる。	理科年表
1596年 9月5日	慶長1年 7月13日 閏	7.5	畿内		京都では三条より伏見の間で被害が最も多く、伏見城の天主大破、石垣崩れて圧死500。諸寺・民家の倒潰も多く、死者多数。堺で死600余。奈良・大阪・神戸でも被害が多かった。余震が昨年4月まで続いた。	理科年表
			近畿中部		高野山では大塔の九輪の四方の鎖が切れた。瓦葺きの建物が倒れたので、伏見城も瓦葺を禁止するというお触れがでたという。余震は翌年4月まで続いた。	地震の事典
1605年 2月3日	慶長9年 12月16日	7.9	東海・南海・西海 諸道『慶長地震』	10~20m程 度	死者2,357。ほぼ同時に2つの地震が発生した可能性がある。地震の被害としては、淡路島安坂村千光寺の諸堂倒れ、仏像が飛散したとあるのみ。津波が犬吠埼から九州までの太平洋岸に襲って、八丈島で死者57、浜名湖近くの橋本で100戸中80戸が流され、死者多数。 紀伊西岸広村で1700戸中700戸流失、安房宍喰で波高2丈、死者1500余、土佐甲ノ浦で死350余、崎浜で死者50余、室戸岬付近で死者400余など。ほぼ同時に2つの地震が発生したとする考えと、東海沖の1つの地震とする考えがある。	理科年表
			【慶長地震】	大津波	死者5,028。震害の記録は淡路島安坂村千光寺諸堂倒れ、仏像が堂前に飛散したというもののみ。津波は犬吠埼から九州に至る太平洋岸に押し寄せた。八丈島で谷ヶ里の家残らず流失、死者57、推定波高10m以上。 房総東岸では潮が干いて30余町干潟となり、ついで津波来襲、波高5~7m、かなりの被害があったらしい。伊豆仁科郷では海岸から12~13町まで波が来襲。浜名湖近くの橋本では戸数100の内、80が流され、死者多く、船が山際まで打ち上げられた。	地震の事典

西暦年月日	和暦年月日	M	発生地／地震名	津波	地震に関する記述	資料
1662年 6月16日	寛文2年 5月1日	7.2~ 7.6	山城・大和・河内・和泉・摂津・丹後・若狭・近江・美濃・伊勢・駿河・三河・信濃		死者830。比良岳付近の被害が甚大。滋賀唐崎で田畑85町湖中に没し、家屋倒潰1,570。大溝で家屋倒潰1,020余、死者37。彦根で家屋倒潰1千、死者30余。榎村で死者300、戸川村で死者260余。京都で家屋倒潰1千、死者200余など。諸所の城破損。大きな内陸地震で、比良断層または花折断層の活動とする説がある。	理科年表
					死者827。琵琶湖の西側で被害が大きかった安曇川上流朽木谷・葛川谷で山崩れ、村落埋没、川塞ぎ後決壊。倒壊家屋唐崎で1,570戸、大溝・彦根でそれぞれ約1千など、死者大溝37、彦根30余、倉川榎村300余、町居村で260余。 京都では二条城破損、家屋倒壊は、上京の町屋36軒から洛中86軒、1千余軒と諸説ある。死者200余。五条石橋落橋。六地藏・鞍馬で山崩れ。畿内各地の城破損。小浜で城、家屋破損多し。琵琶湖西岸約200町歩（延長5km、幅50m）湖水に没す。 三方五湖付近で地盤の隆起があった。江戸、長崎で有感。余震12月頃まで続く、大規模な地震でM7.5あるいはそれ以上か。比良断層系、または花折れ断層から発生したという見方がある。	地震の事典
1707年 10月28日	宝永4年 10月4日	8.4	五畿・七道 『宝永地震』	最大30m 以上	死者20,000。わが国最大級の地震の一つ。全体で少なくとも死者2万、家屋倒壊6万、流失家屋2万。震害は東海道、伊勢湾、紀伊半島で最もひどく、津波が紀伊半島から九州までの太平洋沿岸や瀬戸内海を襲った。	理科年表
			中部・近畿・四国・中国・九州	大津波	津波の被害は土佐が最大。室戸・串本・御前崎で1~2m隆起し、高知市西部の地約20km <sup>2</sup> が最大2m沈下した。遠州灘沖および紀伊半島沖で二つの巨大地震が同時に起こったとも考えられる。	
			中部・近畿・四国・中国・九州 【宝永地震】	大津波	死者26,151。震害・被害ともにきわめて大きかった。倒壊家屋は東海、近畿中部・南部、四国のほか、信濃・甲斐でも多く、北陸・山陽・山陰・九州でも生じた。津波は房総から九州に至る太平洋岸を襲ったほか、瀬戸内海に入り、また八丈島にも上った。その被害は高知県沿岸できわめて大きく、紀伊半島~伊豆西岸で大きかった。太平洋岸の地方では、震害と浪害がはっきりと区別できない資料が少なくない。 紀伊半島西岸では、推定波高4~6m、広で850戸中、150戸倒壊、700流失、死者292、湯浅組750余戸の内、流失367、死者65、田辺倒壊274、流失269、流死24、死周参見134、広川192。 近畿地方内陸部でも震害は大きく、家屋倒壊大和郡山で468、柳本690、奈良65。大坂では津波による橋や船の被害も多かった。家屋倒壊500余~約1800（約8千~1万6千世帯）、死者500余、橋落30~50。 徳島県下では波高5~7m、牟岐死者110余、浅川140余。高知県沿岸では推定波高5~8（25）m、家屋倒壊5千、流失家屋1万2千、死者行方不明併せて約2,800。種崎では一木一草も残らず、死者700余、宇佐死者400、須崎死者300、九礼死者100余。 瀬戸内海では、高松領内で家屋倒壊約950、円亀領内で413、福山60など。山陰では杵築（大社町）の倒壊家屋130が目立つが、ここは1946年南海地震の際も被害が目立った。九州佐伯家屋倒壊約100、推定津波波高約3m、流失約400、死者22。日向天領で家屋倒壊440、死者1。 道後温泉約145日止まり、湯ノ峰・山地・龍神・瀬戸・鉛山の湯が止まった。室戸岬1.5m隆起し、津呂・室津では大型船入津が不可能になった。高知市の西隣では約20km <sup>2</sup> が最大2m沈下、船で往来したという。串本1.2m、御前崎1~2m隆起。 この地震の激震地域、津波来襲地域は、安政元年11月4日東海地震と、11月5日南海地震を併せたものによく似ている。M8級の二つの巨大地震がほぼ同時におこったのかもしれない。	地震の事典

西暦年月日	和暦年月日	M	発生地／地震名	津波	地震に関する記述	資料
1854年 7月9日	安政1年 6月15日	7.3	伊賀・伊勢・大和 および隣国		死者1,500。12日頃から前震があった。上野付近で家屋倒壊2千余、死者約600、奈良で家屋倒壊400以上、死者300余など、全体で死者は1,500を超える。上野の北方で西南西―東北東方向の断層を生じ、南側の1kmの地域が最大1.5m相対的に沈下した。木津川断層の活動であろう。	理科年表
			近畿中部・長野県 【伊賀上野断層】		死者1,160。6月12日頃から前震があった。15日0～2時頃本震、6～8時頃最大余震があったようだが、地域によっては、ほぼ同じように感じ、四日市付近などでは後者を強く感じたようである。 伊賀上野から奈良・大和郡山にかけての地域で被害が著しく、伊賀上野町方で全壊460余、死者300余など、郷方で全壊1,400～1,800、死者70～80、焼失60余、焼死約60。木曾川、町屋川、朝明川、鈴鹿川などの土手に亀裂がきたり、沈下したところが多かった。紀伊半島沿岸の住民は津波を心配したという。 木曾馬籠付付近で往還を損じた。宮津でかなりゆれ、広島有感。上野の北方で西南西―東北東の方向に断層を生じ、南側の長さ約1.0km、幅約200mの地域が最大1.5m沈下したという。木津川断層系から発生した地震と考えられる。	地震の事典
1854年 12月24日	安政1年 11月5日	8.4	畿内・東海・東山・北陸・南海・山陰・山陽道 『安政南海地震』	最大30m 以上	東海地震の32時間後に発生、近畿付近では二つの地震の被害をはっきりとは区別できない。被害地域は中部から九州に及ぶ。津波が大きく、波高は串本で15m、久礼で16m、種崎で11mなど。地震と津波の被害の区別が難しい。死者数千、室戸・紀伊半島は南上がりの傾動を示し、室戸・串本で約11m隆起、甲浦・加太で約1m沈下した。	理科年表
			近畿中部南部・四国	大津波	死者8,236。近畿周辺では地震・津波の状況や、被害を1854年12月23日の安政東海地震と区別することが難しい。潮ノ岬以西の津波の被害はおおむね地震によるものようである。 震害も大きかったが、紀伊半島・四国の沿岸では震害と津波の区別がつきにくい。土佐領で家屋倒壊3千余、流失約3,200余、焼失2,500、死者372、推定波高5～8(28)m。 須崎、流失約140、家屋倒壊20、死者30余、宇佐流失770、死者21。阿波では推定波高3～7m、木岐203戸中190流失、牟岐死者20、家屋約650のうち、560余流失。穴喰271戸中流失141、家屋倒壊15、1千余人中死者8。 大阪湾北部で推定波高約2.5m、大阪で津波が木津川・安治川を逆流し、停泊中の船多数(8千とも)破損し、橋々を壊し、死者700余(約400、2千、3千、7千などの説もあり)。 紀州沿岸熊野以西大半流失。紀州領(勢州領分含む)家屋全半壊1万8千余、流失約8,500、水死約700。広・湯浅推定波高4～5m、併せて家屋全壊約20、流失家屋300余、死者約60。紀伊田辺領家屋倒壊250余、流失530余、死者24。袋港で約7m。津波は北米沿岸にまで達した。 松山領で全半壊約1,500、丸亀で家屋倒壊50。加古川で家屋倒壊約80、広島で家屋倒壊22、岡山で全半壊89、死者1。出雲杵築(大社)付近で家屋倒壊150、この地区は1707年宝永地震、1946年南海地震などでも被害が大きかった。 高知市付近は約1m沈下し浸水、上ノ加江付近で約1.5m、甲ノ浦で1.2m沈下、室戸岬で1.2m隆起。(和歌山県)加太で1m沈下、串本で約1m隆起。 湯ノ峰温泉、道後温泉止まり、翌年2～3月ころから出始める。紀伊鉛山湾の温泉も止まり、翌年5月頃から冷水が出始め、翌々年4月頃に回復した。 紀伊有田郡横浜村では10月中旬から潮の干満が常ならなかった。また、10月下旬から小地震を感じた。南海道沖を震源域とするM8級の巨大地震。	地震の事典



西暦年月日	和暦年月日	M	発生地／地震名	津波	地震に関する記述	資料
1927年 3月7日	昭和2年	7.3	京都府北西部 『北丹後地震』	50cm以下	死者2,925。被害は丹後半島の頸部が最も激しく、淡路・福井・岡山・米子・徳島・三重・香川・大阪に及ぶ。全体で死者2,925、家屋全壊12,584。	理科年表
				(無被害)	郷村断層(長さ18km、水平ずれ最大2.7m)とそれに直交する山田断層(長さ7km)を生じた。測量により、地震伴った地殻の変形があきらかになった。 京都、奈良で震度5の揺れがあった。	気象庁
1936年 2月21日	昭和11年	6.4	大阪・奈良 『河内・大和地震』		死者9、家屋全半壊148。地面の亀裂や噴砂・湧水現象も見られた。	理科年表
			奈良県北西部 『河内・大和地震』		主として、大阪-奈良県境山地を挟んで、奈良盆地と大阪府南河内郡東部に瓦の落下、壁の破損、土塀・築地塀の崩壊、道路・堤防の亀裂、墓石転倒などの被害を生じた。 京都、大阪、奈良で震度5の揺れがあった。	地震の事典 気象庁
1946年 12月21日	昭和21年	8.0	南海道沖 『南海地震』	10～20m 程度	死者1,330。全壊23,487。被害は中部以西の日本各地にわたる。津波が静岡県より九州に至る海岸に襲来し、高知・三重・徳島沿岸で4～6mに達した。 室戸・紀伊半島では南上がりの傾動を示し、室戸で1.27m、潮岬0.7m上昇、須崎・甲浦で約1m沈下。高知付近で田園15km <sup>2</sup> が海面に没した。	理科年表
					奈良、彦根で震度5の揺れがあった。	気象庁
1995年 1月17日	平成7年	7.3	兵庫県南部 『平成7年兵庫県南部地震』、『阪神・淡路大震災』		活断層の活動によるいわゆる直下型地震。神戸、洲本で震度6だったが、現地調査により淡路島の一部から神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市にかけて震度7の地域があることが明らかになった。多くの木造家屋、鉄筋コンクリート造、鉄骨造などの建物のほか、高速道路、新幹線を含む鉄道線路なども崩壊した。被害(平成17年12月22日現在)は死者6434名、不明3、負傷者4万以上、住家全半壊24万以上、住家全半壊6千以上。早朝であったため、死者の多くは家屋の倒壊と火災によるもの。 【大阪市の被害】 死者18名、重傷4名、軽傷353名、全壊194棟(248世帯)、半壊2,148棟(3,120世帯)、一部破損17,089棟(21,654世帯)、火災16件(20棟、51世帯、負傷8名) ライフライン被害 水道施設：給水管で約5,300箇所の被害、配水管の漏水285箇所 下水道施設：西淀川、淀川、此花など臨海部7行政区において、下水本管、マンホール、公共ますなどの破損等 電力施設：約100,000戸において一時停電 ガス施設：大正、西淀川、此花、淀川ほかで約6,000戸の供給停止。 道路・橋梁：561箇所で陥没、隆起 公園施設：地割れ等の発生 港湾施設：南港においてヤードの一部に沈下やクラックの発生 河川：淀川下流部左岸西島地区(此花区)において、堤防直下の砂層の液状化により、堤防が延長2kmにわたり被害を受けた(最大3m沈下)。	理科年表(平成14年版) p759の記述を修正 阪神・淡路大震災の記録など

大阪に被害をもたらした主な台風・豪雨の状況及び被害

状況 発生年月日 (災害)	気象状況				被害状況								備考
	最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s)	最大瞬間風速 (m/s)	雨量 (mm)	人的被害			家屋被害					
					死者 (人)	行方不明 (人)	負傷者 (人)	全壊 (世帯)	半壊 (世帯)	流失 (世帯)	床上浸水 (世帯)	床下浸水 (世帯)	
昭4.8.15 (暴風雨)	987.9	14.5		28.4								約2,000	
昭7.7.1~2、7~9(大雨)				166.9								約23,000	
昭8.9.4~5(強風・高潮)	986.1											約27,000	
昭9.9.21(室戸台風:暴雨風雨・高潮)	954.1	42.0	60	19.5	949	41	3,966	2,782	6,181	462	124,124	24,357	
昭10.8.11(風雨)	995.3	42.0		182.7								約30,000	
昭10.8.28~29(風雨)	985.0	13.8	21.6	74.4							(1,304)	(12,994)	
昭10.8.31~9.2(大雨)												約35,000	
昭15.7.9~10(雷雨)				141.7							1,929	92,518	
昭19.9.17(風雨)	986.0	18.6	21.8	53.3							(8,591)	(7,266)	
昭20.9.18(枕崎台風:風雨)	981.1	19.0	22.5	2.8							44,994	10,490	
昭25.9.3(ジェーン台風:暴風雨・高潮)	970.0	28.1	44.7	64.7	211		18,573	5,120	40,557	731	41,035	26,899	災害救助法適用
昭27.7.10(大雨)				388.7	(41)		(454)	(187)				(192,238)	災害救助法適用
昭28.9.25(台風13号:暴風雨)	977.4	22.0	28.9	176.1	1		8	42	852	34	7,087	91,136	
昭32.6.27(台風5号:風雨・高潮)	998.5	14.4	22.8	293.0				4	2		37,870	86,536	災害救助法適用
昭36.9.16(第2室戸台風:暴風雨・高潮)	937.0	33.3	50.6	44.2	6		637	297	1,429	31	51,491	54,027	災害救助法適用
昭39.9.25(台風20号:風雨・高潮)	987.4	19.0	31.7	41.4			(17)	(104)	(15)			(10,563)	
昭40.9.13~16(台風24号及び前線:大雨)	978.6	14.7	29.5	250.5	(3)	(1)	(16)	(13)	(34)	(1)		(12,445)	
昭47.7.12(大雨)				300.0							1,060	7,199	
昭47.9.16(台風20号:暴風雨)	971.5	23.2	30.8	117.5		1					3,772	13,537	
昭50.7.4(大雨)											668	7,053	
昭54.6.9(大雨)				497.0							699	6,047	
昭54.9.30(台風16号:風雨)	972.2	17.6	33.2	142.0							4,378	20,766	
昭57.8.1~3(台風10号:風雨)	985.2	13.4	24.7	122.0							5,294	24,572	
平11.8.11(大雨)											209	2,534	
平11.9.17(大雨)											115	4,662	
平23.8.27(大雨)				1時間雨量:77.5							96	1,692	
平24.8.13~14(大雨)				1時間雨量:83.0							87	728	
平24.8.18(大雨)				1時間雨量:94.0							22	767	
平25.8.25(大雨)				1時間雨量:67.5							39	1,057	
平29.10.22~23(台風21号:風雨)	945.0	12.4	24.0	204.5	1		3						
平30.9.4~5(台風21号:風雨)		27.3	47.4		3		178						

注:( )内は大阪府内の被害を示す。

## 大阪市内における主な火災

発生年月日	発生場所	死者 (人)	負傷者 (人)	焼損面積 (m <sup>2</sup> )	備考
昭 37. 2.21	北区小松原町 (千成パチンコ店)	1	3	9,145	
昭 41.10.21	住吉区北加賀屋町 (KK松崎木工)	6	4	7,463	
昭 45. 4. 8	大淀区国分寺町 (ガス爆発事故)	79	406	1,707	
昭 47. 5.13	南区難波新地(千日デパート)	118	81	8,763	
昭 48. 1.20	此花区高見町 (東亜ペイントKK)	0	101	1,766	
昭 63. 5.18	港区海岸通 (プリアムーリエ号)	11	35	—	船舶火災
平成元年以降の大阪市内主な火災					
平 3.5.25	平野区加美南(シャープ(株))	—	3	1,590	
平 5.3.24	大正区千島(公団千島団地)	—	20	12	
平 8.3.25	西区本田(九条ランドリー)	—	8	1,827	
平 9.9.4	西成区山王(住宅)	3	12	837	
平 11.3.8	大正区三軒家東(七福荘)	3	11	54	
平 12.12.27	西成区天下茶屋(パールマンション)	1	9	43	
平 14.9.9	中央区道頓堀(旧中座)	—	5	1,762	
平 16.11.28	平野区加美正覚寺(作業場)	—	1	1,732	
平 17.9.26	北区西天満(事務所)	—	26	25	エレベーター
平 20.10.1	浪速区難波中(キャッツなんば店)	15	10	30	
平 21.7.5	此花区四貫島(パチンコ店)	4	20	313	
平 21.7.19	西成区花園北(共同住宅)	—	30	24	
平22.2.3	住之江区粉浜(市立粉浜小学校)	—	32	—	
平22.12.10	中央区久宝寺町((株)ヒガシ21)	—	15	5	
平24.2.22	北区角田町(地下鉄梅田駅)	—	14	25	
平25.9.28	西成区鶴見橋(作業場(休業中))	—	1	1,596	
平 26.3.7	淀川区十三本町(阪急十三駅前飲食店街)	—	—	1,658	
平 28.2.4	天王寺区大道(住宅)	1	31	46	
焼損面積1500m <sup>2</sup> 以上、負傷者等の合計が10名以上又はその他特異な災害					

## 大阪市内における主な事故

発生年月日	発生場所	死者 (人)	負傷者 (人)	備考
平5.10.5	住之江区ニュートラム住之江公園駅 (ニュートラム事故)	0	215	